

# 行くぞ荒波、一直線!

型が少しずつよくなっています



あの赤いのが欲しいもの。一番ヤリを決めたのは予想外にも菊吉名人。毎回船上での昼寝が得意な人だが、この日は出航前から仕掛けを結ぶなど気合いが違っていた。立て続けにもう1枚を釣る。いずれも500〜600g級ながら、



納竿でこれだけ釣れればいい年越しになります

人がキロ前後ながらも3連釣を決めれば、加藤名人も負けはならじと、さらに15kg級の



大ダイの顔をみよ

「この紋所が目に入らぬか」の一瞬で、一同が平伏させら



「楽釣会」の面々。いい納竿になりました



「木川丸」の木川亮一船長とおかみさん

披露目やパレードなんかある日には仕事を休み、抽選にも申し込んで必ず出かけるというマニアらしい。もう一人の新人土橋さんは船釣りもこの日が初めて。楽釣会事務局長の増田名人に手ほどきされるや、真つ先に良型のホウボウを釣ってみせた。かくして久里浜沖の水深50m前後で熱戦の火ぶたが切られた。ホウボウも赤い魚には違いないが、正月の姿付けには大きすぎる。

## 後半戦にはいつて3kgの大ダイが釣れた

12kgの良型マダイを決めたのは「広尾江戸つ子寿司」の若大将ヒロちゃんこと加藤名人。ハリスよりマイナス2mのタナで釣つたらしい。船長が指示したタナはハリ6mプラス1mであったから、潮流に合わせて上下させるのが大事なようだ。やがて真打ち登場。吉川名人がキロ前後ながらも3連釣を決めれば、加藤名人も負けはならじと、さらに15kg級の



氏家さんが釣ったアジ

を追約する。左舷はマダイの花盛り。ドラマの主人公はこの2人に絞られそうに思われたとき伏兵が現れた。大半をキャビンで過ごしていた氏家名人が竿を手にして、なにか付いて

いるとのたまう。注目を集めたその1匹はメーター級のホンザメ。その笑われ役を大抵は私がやるのだが、今回だけは小振りながらも型を見て、迷人組から脱出。本当の主人公はその後に待っていた。隊列行進の大好きな楠亀さんが、左舷の前方10mほどに浮上させたのは3kg級の大ダイだった。



「楽釣会」は「木川丸」を仕立てて、8人が集結した



まずはイシダイが入れ掛かり状態になった

「楽」に出没する釣り好きの会。こういう場合は大抵、店主がリーダー役となるのだが、この店主は船にからきし弱い。一回だけ顔を出し、コマセをしてからというものの、二度と足を運ばなくなった。そんないきさつもあってか、皆さんコマセ釣りが上手。そ



このサイズのマダイがよく釣れた

こで今回も金沢漁港「木川丸」からのマダイ五目となった。朝寝坊組にもやさしい7時に集合した8人。まずは席決めのクジ引きからスタートする。4番クジを引いた私は残りの隅いち。右舷ミヨシに入つたが、この船に限って、その

# 怒濤の連載中!

## 団塊の世代 釣り師

# 行くぞ荒波、一直線!

気心の知れた仲間同士で仕立船の釣り。ワイワイ、ガヤガヤと過ごす一日は、釣れても釣れなくても至福の時間。また新しい一年への意欲もわく。

釣りライター 庄山 晃

## 第104回

# 金沢漁港からマダイ五目に挑戦

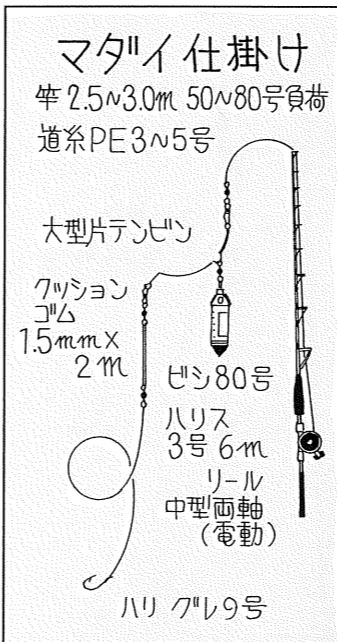
「木川丸」の船宿仕掛けとビン



席でのいい思い出はひとつもない。コマセの効く釣り座が有利なのは申すまでもないが、潮どきがどうの、風向きがどうのと言ったところで、右舷ミヨシが好きなのだから致し方ない。

受動喫煙もなければ、仕掛けの投入でも楽な右舷ミヨシをゲットできれば、マダイ1枚の価値にも等しい喜びだ。

受動喫煙もなければ、仕掛けの投入でも楽な右舷ミヨシをゲットできれば、マダイ1枚の価値にも等しい喜びだ。



受動喫煙もなければ、仕掛けの投入でも楽な右舷ミヨシをゲットできれば、マダイ1枚の価値にも等しい喜びだ。

## 久里浜沖で 熱戦の火ぶたが切られた

今回は新メンバーが2人いて、兄貴格の楠亀さんは自稱ルーサー名人。海上で自衛艦に遭遇したら大喜びして、隊員の仕事ぶりなど能弁に解説した。

なんでも観艦式とか、閩兵式なんかが大好きで、自衛隊はもろろん、米軍であれ、お



新人の土橋さんは良型のホウボウを釣った